

第 4 回委員会における主な意見

- (1) 防災の観点をうたってはどうか。
- (2) 景観とか植生に関する計画について、方向性を書いてはどうか。
- (3) 市道との共存について、見学者の安全の観点からの整備など考えてほしい。
- (4) 本丸跡はイベントでもっと活用できるのではないか。
- (5) 利活用や情報発信について、もう少し細かく示した方が良い。
- (6) 仙台城跡の本質的価値をしっかりと押さえたうえで議論を進めるべきである。
- (7) 調査研究の組織や進め方など、次のステップを具体化できるようにすることが必要だ。
- (8) 保存活用計画は 20 年の計画で大枠なので、どこまで書くべきかという判断もあるかと思うが、10 年間くらい短期的なことを書く整備基本計画では、整備を踏まえてどう活用していくのかということとを盛り込んで議論した方が良い。整備基本計画の見直しの中で、具体的な活用のあり方を検討していくという方向性を含めるかどうか検討してはどうか。活用のあり方の検討にあたっては、市民も巻き込み、お互い知恵を出し合う場を設けることも一つの方法だ。
- (9) まず保存してそれを活用していく、という内容だが、活用のあり方があってそのための保存の方法という考え方もあっていいのではないか。もうちょっと活用の方に力点があると良いと感じる。
- (10) 資料 7「活用の方向性と方法」の検討素案の内容を充実させて整理してはどうか。仙台城跡の来訪者への対応には二つの側面がある。一つ目は先ず観光客などに知っていただくこと、二つ目は市民や歴史に興味のある観光客に深く知っていただくことだ。そういった方向性で整理すると、活用の具体的なイメージがわくのではないか。
- (11) 大橋から大手門を撮った写真が残されており、仙台城らしい風景だと思う。その点を、活用を考える上での新たな見方とできるかと思う。市民の城となるような、活用、整備を検討してほしい。
- (12) 史跡の範囲外も含めた方向性をうたって良い。公園部局で進めている追廻地区のガイダンス施設（(仮称)公園センター）のあり方と連携した保存活用計画となるように。

- (13) 本丸跡でガイド活動をしているが、来訪者には写真を撮って終わりではなく、1時間くらいはいてほしいと思っており、そういう考えでガイドしている。本丸跡が色々なことに利用できるようにしていきたい。コンサートなど、城跡にはびったりではないか。
- (14) 運営体制について、活動をトータルにマネジメントする方向性を目指してほしい。
- (15) 仙台城跡は、1回行ったから終わりではなく、市民にもっと愛される場所になってほしいという想いが込められた内容が盛り込まれると良い。
- (16) 石垣等の保存管理、例えば清掃等に市民がボランティアとして関わることにより、自分たちのお城だという意識を醸成していくことがうたわれているような文章にしてもらえると良い。